

この本、
いかがですか？

“学生からアドバンスまで 助産師必携のガイドが再登場”

評者

高橋弘枝

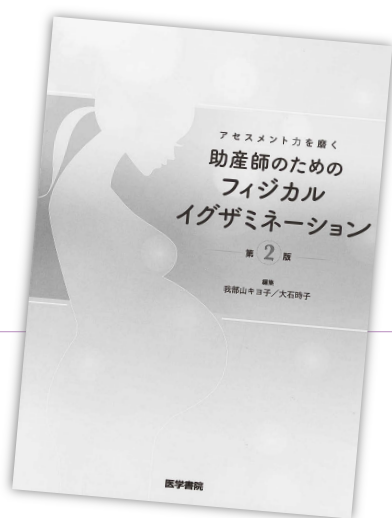
大阪府看護協会会長

第

1回と第2回の助産実践能力習熟段階(CLoCMiP®)レベルⅢ認証制度の認証結果では、就業助産師の3割以上を占める1万1002人の「アドバンス助産師」が誕生している。このアドバンス助産師に求められる役割の1つが院内助産・助産師外来の開設、運営である。

院内助産については、2008年に「院内助産ガイドライン—医師と助産師の役割と協働」が公表され10年が経過した。この間の周産期医療を取り巻く環境や医療機関の機能は大きく変化している。また、助産師外来の数は増えているが、院内助産の数は横ばいである。増えない要因に、関係者間での合意形成と助産師の実践能力の不足があるとも言われている。

それらをふまえ、妊産褥婦とその家族の多様なニーズに応えるために、2018年3月に日本看護協会により「院内助産・助産師外来ガイドライン2018」が策定された。また、このガイドラインを活用し、日本のすべての妊産婦が安全・安心に出産できる体制が整備されるために、すべての分娩取り扱い医療機関への設置を目指すとも表明された。このガイドラインの中で特筆すべき点が、対象者の選定基準や、担当・指導する助産師の基準、産科医師・新生児科医師への相談・報告基準を設定しているところである。また、これらの基準は、設置される施設の状況をふまえ、産科医師等と協議し合意のうえで基準を定めることが、今回新たに強く



アセスメント力を磨く 助産師のためのフィジカル イグザミネーション 第2版

我部山キヨ子／大石時子 編集
本体 3600円＋税
医学書院／2018年

推奨されている。

そのような中、このたび、書籍『アセスメント力を磨く—助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版』が発行された。初版と違いオールカラーで、図や写真、イラストが見やすくなっている。CLoCMiP®レベルⅢ認証制度に合わせ、さらに内容が充実された。

本書は助産師を目指す学生にはもちろん、臨床の助産師にとってもさまざまな臨床判断の場での貴重な教科書、ガイドとなる。前述のガイドラインには、院内助産・助産師外来を担当・指導する助産師に求められる能力として、情報収集能力、アセスメント能力、スクリーニング能力、計画立案と変更への対応能力、急変対応と報告できる行動力、他部門との調整能力等が挙げられている。また、医師と協議し合意形成を行なう場、医師と同じ土俵に上るためには、日ごろからの根拠に基づいた実践が必要となる。本書はまさに、その能力と実践の基礎をつくるためにも、スタッフの指導時にも、自身の知識を再確認し日々の実践を強化するためにも、アドバンス助産師必携の書籍である。